

上山高原のススキが大活躍！

県指定重要文化財 ^{みなみそお}南曾尾観音堂(神戸市北区) 修復工事

室町時代後期に建立された神戸市北区の「南曾尾観音堂」では、現在、茅葺き屋根の修復工事が進められていますが、その材料として上山高原のススキが利用されています。

9月13日には神戸市教育委員会による修復工事についての現地説明会が開かれ、実際の茅葺き作業の現場を見学しながら、葺き替え工事を請け負っている(株)くさかんむりの職人さんから説明を聞くことができました。

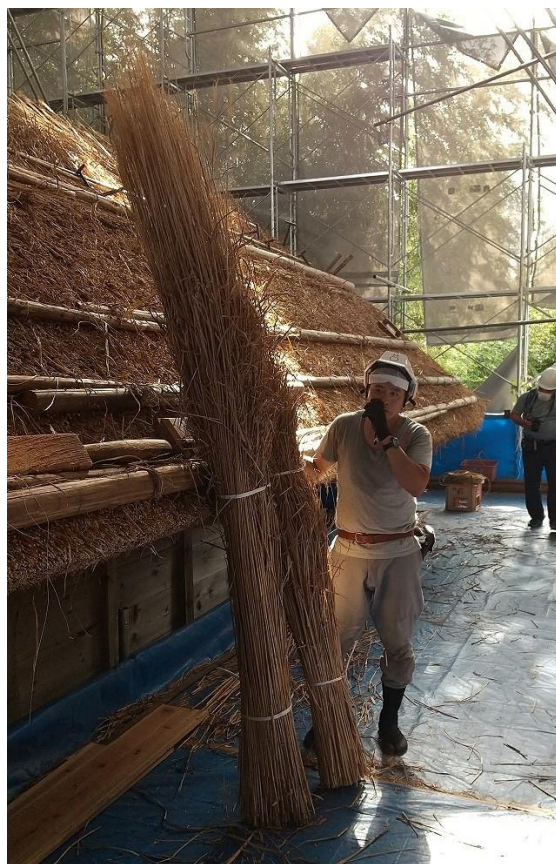
遠い昔はこのような葺き替えの際の茅の調達は地元で行っていたそうですが、今は無理で、今回の修復工事では熊本、東北、そして上山と3地域の茅を、それぞれの特性に応じて使い分けているとのこと。

屋根板のすぐ上には丈の長い熊本の茅、その上、中間部分には、丈は短いが柔らかく枝分かれの多い上山の茅、さらにその上や隙間には丈夫な東北の茅といった具合だそうです。

上山高原ですくすく育ち、皆さんが額に汗して刈り取ったススキは、神戸の地でいにしえの文化を伝える貴重な建物をしっかり守り続けてくれることでしょう。



(同じように見えますが3種類の茅を使い分けて葺いています)



(手前が熊本、奥が上山の茅。丈が短く柔らかいそうです)